

HEADLINE

表

1. 平成最後の文理だより
(100号記念 ちょっと硬め)

裏

2. 受験のプロではなく、プロの受験生になろう！
3. 夏に生きるGWの過ごし方
4. わかっちゃいるけどやめられない 編集後記

Topic1

平成最後の文理だより(100号記念)

「noblesse oblige」という言葉を知っていますか？

今年の東京大学の入学式で上野千鶴子先生のスピーチが話題となっていますが、伝えなかったメッセージの一つがこの、「noblesse oblige(ノブレス オブリージュ)」であると感じました。

私自身がこの言葉に触れたのは、今から20数年ほど前。当時の上司が、「自分の持っている力を他のために使いなさい。」と話をしてくれたときに聞きました。考え方は理解できましたが、納得できたかどうかは忘れしました。

「noblesse oblige」とは、直訳すると「高貴さは義務を強制する」というフランス語だそうで、地位や名誉、力をもった人間はそれを社会へ還元しなければならない、という言葉、というか文化です。文理学院の中で合言葉のようにになっている「忘己利他」とは少し違う、ヨーロッパらしい文化だと思います(当時の私は高貴でも力があつたわけでもありませんが)。

人間は環境で変化します。局面に順応する、という言い方の方が正しいかもしれませんが。その恵まれた環境の中で得た力は、それが何であれ、自分だけの努力ではないのです。そう上野先生は話されました。

みなさんは多くの情報を得る術があり、触れる機会も多すぎるくらいあります。今は、自分のことだけを考え、行動すればよい時期なのかもしれません。しかし、その環境を整えてくれた家族に感謝を忘れてはいけません。この感謝するということができない人間に、「noblesse oblige」という考え方は到底理解できないからです。

数年前、生徒とこの話をしたときに、ある生徒から「日本語の“分かち合う”に似ているような気がします。」と言われたことがありました。確かに発想として近いものがあるかもしれませんが、「noblesse oblige」とはもっと広域的な還元を意味しているようです。そんなやりとりの一方で、やはり日本語は実生活に結び付いている言語だ、隣人が基本だ、と思いました。

みなさんには未来が待っています。テクノロジーがいろいろな距離を縮め、いろいろなことが拡散しやすい広い世界が待っています。そのような世界で誰かの役に立てることは、とても嬉しいことだと思います。ただし、その力がなければどうにもなりません。そして、その力は容易に手にすることはできないのです。今は、大学受験に向けて、自分自身を徹底的に鍛える時期なのです。

そして、この話をするときには必ず添えることなので、心にとめておいて欲しいことがあります。言葉は出会うときと理解するときとずれがあります。先に言葉を知り、まさに、という瞬間をのちに経験する。何とも言えない経験をしたのちに、その表現を知る。いずれにしても、いつか納得というか実感できるときまで、いろいろな言葉と出会って欲しいと思います。

新テストに向けて、現高校2年生以下は情報があるようで無いようで…、何を信じてよいのか…。例えば数学の出題例をみると、一部の問題では文章が長く、日本語で書かれたストーリーを追いながら、穴埋めをしていくというのがあり、どんな問題集がよいのか？と考える人も出る始末です。

確かに、そういう問題を数多く取り組むと、多少は慣れて取り組みやすくなるかもしれませんが、そのような付け焼刃で受験は乗り越えられるはずはありません。では、そこで問われているであろう「日本語で書かれたことを理解し、必要な知識を用いて式を立てる」という力はどこで培われるべきなのでしょう？ 察しのいい人は気づいたかもしれませんが、そうです、それは“日々受ける授業の中”で培われるべきなのです、培うことができることなのです。本来トレーニングできる場面が日常的にあるのに、それを活用しない。その無駄の積み重ねが取り返すのが困難な受験期の重荷となるのです。

英語についても、「リスニングを重視する」かのように伝えられていますが、「リスニングも重視する」なのです。そもそも、英語は言語、言語は文化そのものです。例えば“日常的に使う言葉(単語)は短い”というのは言語文化では常識の範囲です。そういったことを理解せずに、文化を理解しようとせず必死に単語を覚えること自体、おかしな話なのです。だから、言語に馴染むために1年生の頃からしっかりと例文を用いて音読を欠かさず取り組むことが大切なのです。使ってこそその言葉、習うより慣れる、という鉄則が生きるものなのです。

受験がどう変わるか、等の情報に惑わされず、1年生のうちからしっかりと学習法を身につけましょう。おかげさまで文理学院では、一般的な予備校や映像授業とは異なり、日常何をすればよいかを伝える、時には厳しく要求することで生徒を指導してきました。3年間という長い時間を生徒と共に歩いていく塾です。授業だけを提供しているわけではないのです。こういった部分が明るい未来を作ってくれるはずですよ。

驕った言い方ですが、「新テストで、受験がようやく文理がしてきた指導法に追いついてきた」といったところでしょうか。

受験情報をたくさん持つ「受験のプロ」になる必要はありません。評価される、求められる学力観を理解し、それに対応できる学力をつけるためのトレーニングを毎日できる「プロの受験生」になりましょう。それが合格への最短距離です。

GWの学習計画は立てましたか？ まだという人は、すぐ立ててください。その際の注意点は…

- ① **GW中の最終的な目標を設定する。** 各教科バランスを考えて設定します。それはどの教科も満遍なくということではありません。
- ② **目標が達成できたかどうかを測る指標を作る。** 達成度が測れなければ、取り組みが正しかったかどうかを判断できません。
- ③ **実現可能な計画であること。** 何事にも必ず時間的な制約があります。限られた時間の中でペースを考えながら計画を立てましょう。

【補足】世の中、計画通りに事は運ばないことが普通です。毎日、計画とその日の取り組み、成果がどうであったか見直しましょう。そして必要なときには計画の微調整や変更をしましょう。実は、この繰り返しこそ、次に控える、絶対に失敗の許されない夏休みの過ごし方を決めるのです。特に今年は10日間もあるGWです。この貴重な経験ができるチャンスを逃してはいけません。文理の先生と計画を立てましょう。

そして、それ以前に生活のリズムを崩さない、朝寝坊をしない。ということは忘れてはいけない重要事項です。

1960年代、植木等さんという芸能人が歌った曲に「スーダラ節」というのがあります(おじいちゃん、おばあちゃんに聞いてみてください)。歌の内容は、「お酒は体に悪いと分かってはいるけど、やめられないものなんだよな」というもので、コミカルに歌い上げて一世を風靡しました。こんな頃からのめりこんで失敗するものはたくさんあったのです。偉そうに話す大人たちもどこかの場面で、“やめた方がいいけどやめられない”ものとのように付き合えばよいか悩んできたのです。

今、みなさんは「ゲームはだめ」「携帯を使いすぎるな！」などと言われて「うるさいよ、分かっているよ！」と言いたい人がほとんどでしょう。そうです、みなさんは分かっているのです。だからこそ、それに流される人と、うまく距離を置くことができる人とでその後、大きな差が出るのです。失敗するならば早い方がいい、でも、こんな失敗しない方がいい。ということです。

■ブログには各校舎の情報満載！ スケジュール、講師のつぶやき、自分勝手なメッセージ…

校舎ブログをホームページから、チェックしてください！

■第一志望合格のために、スタッフ一同全力で生徒を応援します。悩みは一人で抱え込もうとせず、いつでも、何でも相談してください(生徒のみなさんも、保護者様も)。

新入塾生募集！

無料体験授業受付中。お友達を紹介してください。

編集後記

このGWは重要なものと考えています。世間では、いろいろな業種でみなさんの時間とお金を目当てに仕掛けてきます。文理では、利益のためではなく、単純にみなさんの受験のためにいろいろ仕掛けてます。どうせ乗せられるなら文理でお願いします。【い】